



仙高の風

令和3年7月21日発行 第4号

全クラスでクラス旗を作成！
体育祭を装飾でも盛り上げました。



令和3年度体育祭開催！

7月8・9日、「臥薪嘗胆～魅せる！仙高Revolution～」をテーマに掲げ2日間にわたる体育祭を開催しました。あいにく外は雨模様となり、種目も変更となりましたが、生徒達の活気で大盛り上がり体育祭となりました。新型コロナウイルス感染防止のため、会場を分散しての閉会式、試合の入れ替え時の動線分けや応援の仕方など、運営面で様々な工夫を凝らして実施しました。体育館でのサッカーやバスケットボール、ドッジボールに加え、2日目には大縄跳びや縦割りクラスでの綱引きなど学年の壁を越えた競技もあり、「Withコロナと学校行事」の新しい挑戦となりました。開会式では岩井誠校長が挨拶の後に校歌を熱唱し、1階フロアーの3年生からは大きな拍手が沸き起こりました。続いて、オープニング恒例の、3年生だけに制作が許されるクラスTシャツのファッションショーが行われました。特設ステージを歩きながらパフォーマンスとトークで自クラスをアピールしました。後の投票で、3年1組が見事優勝。デザインを手がけた守屋実咲さんは、「色がオレンジなので、果物のオレンジをデザイン化しました。3の1の文字を入れる場所に悩みました。あと、クラス全員の名前を入れてトータルデザインしています。」

※第一体育館2階ギャラリーに特設されたスタジオから1・2年生がいる教室にライブ配信されました。



スタジオから1・2年生がいる教室にライブ配信されました。



体育祭実行委員長、佐藤大地さん(3年) Q準備を進める上で大変だったところは？「前日の準備もそうですが、ルール決めやメンバー決めに穴がないようにすることが大変でした。」 Q特に上手くいったと思う種目は？「綱引きは準備から進行、盛り上がりも含めて上手くいったと思います。」 Q縦割り種目で気を配ったところは？「3年生だけでなく、来年、再来年に継ぐことができるように、特に1・2年生も楽しめるように工夫しました。」 Q委員長を経験して、自身が成長したと思うところは？「周りの皆の力を借りて成功させることが出来たと思っています。自分一人頑張るのではなく、仲間と力を合わせることで手に入れることが出来るという成功体験は大きな成長につながったと思います。」 Q来年へのメッセージをお願いします。「来年はコロナも収束していると思うので、盛り上げ方や競技も自由出来るのではないかと思います。高校生活で一番の思い出になるような体育祭にしてください。」

◆陸上競技部 渡邊疾風さんが教育長表敬訪問



7月15日、インターハイ出場を決めた渡邊疾風さん(3年)が、岩井誠校長、陸上部顧問小関浩信教諭と共に、福田洋之教育長を表敬訪問し、東北高校陸上競技大会(6月、岩手県会場)で第5位となり、インターハイ出場の報告と決意表明をしました。

◆県高校総体剣道大会でベスト8に続き、国体県予選会剣道競技会(少年女子の部)でも見事第4位となり、ミニ国体に出場を決めた武藤凜さん(1年)に聞きました。



8に続き、国体県予選会剣道競技会(少年女子の部)でも見事第4位となり、ミニ国体に出場を決めた武藤凜さん(1年)に聞きました。Q仙台高校を選んで入学した理由は? 「大嶋智彦先生から剣道を教えていただきましたからです。」 Q大会では上級生相手。どんな気持ちで臨んでいますか? 「自分のできることを出し切れるようにしています。」 Q普段の稽古で特に頑張っていることは? 「昨日よりも、良い打ちが出来るように意識することです。」

◆生徒会長決まる! 7月1日、7校時に放送による生徒会役員立会演説会・選挙を実施しました。



今年度は生徒会長に2名、副会長に2名の立候補がありました。各立候補者から、公約やこの選挙にかけた熱意、また応援弁士からも熱のこもった応援演説があり、全校生徒も真剣に演説を聴き投票に臨みました。新生徒会長佐藤秀昭さん(2年)副会長山本伊織さん(2年)、副会長鈴木玲翔さん(1年)

◆フレッシュ研修1年次の先生方が、研究授業を実施



7/14、英語科の大沼絵美先生、伊藤沙也香先生が研究授業を行いました。春日川孝高校教育課長、目黒淳一教育センター指導主事、その他多くの本校教員が参観しました。



他にも、7月は、教育実習生4名による実習及び研究授業、宮城教育大学教職大学院2年次実習生2名の研究授業も実施しました。それぞれの研究授業を通して、皆の授業力向上につながる研修の場となりました。

◆交通安全対策委員による自転車点検を実施しました。



6、7月に数度に分け自転車の安全点検を行いました。生徒指導部の先生方と一緒に点検は8項目。ヘルメット着用など交通安全を訴えました。

◆“夏ボラ”を前に集会! 今夏の長期休みを活用し、仙高生110名以上が保育園や介護老人ホームなど各所でボランティア活動を行います。



総務部菅原千広先生は集まった生徒に向けて次のお話をしました。「ボランティア活動とは何だろう? 改めて、自主的・自発的な気持ちで誰かのために何か手伝えることがないかと自分から行う事ですね。今回、こんなに多くの生徒が申込みました。手伝わせてもらっているという気持ちを忘れず、当然、遅刻や欠席などNGです。事前に場所を調べて、5分前には到着すること。」続いて、総務部長伊藤隆先生から、「こんなに思いのある生徒がいるのかと率直にうれしい気持ちです。かつてはボランティア精神を育てようと学校行事のようにして生徒全員を施設などに連れて行きましたが、残念なことに不本意参加の生徒もいて、相手方にも迷惑をかけてしまったという苦い経験がありました。そこでこの度、夏ボラ(夏のボランティア活動)を生徒諸君に紹介して、自分から参加したいという、自主的な活動を支援しようというふうに考えました。こんなに多くの生徒が応募するのを見て本当にうれしい。みんないい経験をしてきてください。」

◆全国大会直前! ダンス部部長矢野結衣さん(3年)に聞きました。



Q現在のチーム状態は? 「大会に対する思いが強いため、時にぶつかることもあります。ですが、楽しむ時と集中する時のメリハリをつけた練習が出来ているためチームの雰囲気はとても良いです。」 Q決意をお聞かせください。「全国大会で自分たちがここまで頑張ってきて良かったと思えるように全力で、楽しくパフォーマンスしたいと思っています。そのため追い込んだ練習を体調管理に気をつけながらしていき、完成度を上げていきたいです。また、先生方や保護者の方々への感謝を忘れずに日々練習していきたいです。」

◆全国総文祭(紀の国わかやま総文 2021)参加の佐々木遥奈さん(2年)に聞きました。



小説部門で優良賞となった作品『追憶の冬』について聞きました。作品の解説をお願いします。「夫婦の出会いの話です。お題であるみかんを出会いのきっかけにして、現代人らしい悩みや行動が見られるような内容にしました。」 出発前の気持ちは? 「緊張していますが、このような機会はなかなか得られないので、楽しみでもあります。」

◆鶴谷特別支援学校の生徒さんの作品を展示しました

6月25日、「鶴谷 ひかり野 児童生徒作品展」を本校正面玄関で開催しました。既に多くの本校生徒・教員が作品を鑑賞し、「家に飾



りたい!」「夏らしい作品が風情があって良い」など感想が寄せられています。陶芸作品や絵画、切り絵の他に、作業や実習で作った作品を手にとって見る事ができました。ありがとうございました。



今夏、第103回全国高等学校野球選手権宮城大会の大会パンフレットの表紙を昨年の仙高のエース、鎌田健太郎さんが飾りました。

〒 981-8502
 仙台市青葉区国見 6-52-1
 担当:主幹教諭 板橋俊文
 Tel 022-271-4471
 URL <http://www.sendai-c.ed.jp/~sendaihs/> 『仙高の風』バックナンバーはホームページからもご覧いただけます。